

第4回福山駅前広場デザインシンポジウム（概要）

日時：2022年（令和4年）11月17日（木）13時00分～15時00分
場所：福山駅前広場内（タクシー待機場付近）
参加人数：60人（オンライン配信なし）

参考2

駅前広場の使い方や運営、管理のあり方などについて、福山の公共空間を使って活動されている方々等を交えて意見交換を行い、今後の議論の参考にするために開催しました。

【トークテーマ】「まちを変える駅前広場の使い方とは」

【内容】ガイダンス、トークセッション

コーディネーター 西村 浩さん（㈱ワークヴィジョンズ 代表取締役）

登壇者

内村 美香さん（㈱M.style ヨガスタジオ ravi manager）

君野 和史さん（伏見町町内会 青年部長 伏見町商店会 副会長）

黒木 美佳さん（㈱ディスカバーリンクせとうち 企画生産部 マネージャー）

谷口 博輝さん（福山電業㈱ エリアマネジメント 事業室長 iti SETOUCHI 支配人）

谷田 恭平さん（㈱umika 代表取締役 瀬戸田映画祭 副代表）

（1）駅前広場の印象や使い方

- 駅前広場から駅周辺の4つのエリアの対比がよく見える。多くの人が行き交う中で、実験により生まれた滞留空間だけはゆっくりと時間が流れていくように感じる。
- 駅前広場が交通の乗り換えをするだけの場所から、時間を過ごす場所になるとまちの雰囲気が変わる。実現すれば多くの人が出会える場になるので、積極的に活用することが大事。
- 駅前がまちの玄関口なので、ここに情報が集まればハブになれる。福山駅前がオール福山で楽しめる場所になると良い。
- 福山は車社会だが、車でなく公共交通機関を使う日を作って、公共交通を使う暮らしの習慣を作っていく必要がある。
- 駅前広場に親子連れや子ども達が集まることで、人がくつろぐ風景が広がると良い。子どもが駅前広場を訪れる理由の一つとなり、そこで親同士の接点が生じると、親同士のコミュニティができる。
- 駅前広場でエリアの特徴を交わらせることができる。バスの停留所から駅前大通り方面に視点が抜けて、エリアの特徴や、人の営みが見えればもっと良くなる。
- 今まではエリアごとに距離があった。各エリアでまちの性格が違う。駅前広場を起点に連携が取れるとエリア全体の価値が上がる。
- 自分の店のためだけに頑張るのではなく、連携してみんながやりたいことを重ね合わせれば、駅前広場のあり方も進化する。
- 福山が持つ素材が福山駅前でも表現できればエリアをつなげられる。

（2）福山らしさを実現するには

- デニムは個性を獲得する切り口。出来上がった製品よりもストーリーを伝えることが大事。
- 福山の気候や地域に適したデザインで、色々な地域の技術を結集したものであることが分かる形で表現できれば面白い。

- 福山の個性を表現するためには、福山の人々が普段していることを普段通りにやるのが大事。
- 駅前広場は福山の新しいランドマークになり得る。駅前広場で人がつながることで、人の熱量や雰囲気、営みが生まれる。人の熱量等がまちを物語る。
- 東西エリアを分断している駅前大通りを使って、大きなイベントができれば、お城が見えて福山らしい構図になる。

（3）駅前広場の使いやすさ、運営について

- やりたいことをチャレンジできる場にするためには、駅前広場を簡単に使える仕組みが必要。
- 行政と民間が一緒に考え、ルールを決め、それぞれの分野のプロで役割分担ができれば運営しやすい。
- 特定の人だけで駅前広場を使用すると閉鎖的になる。様々な人に関わってもらいながら、これまでのノウハウを生かして、使う人を増やしたい。
- 活動しやすい状況を作る運営組織ができると、色々な人が集まりやすい。

